

オンラインファンコミュニティに見られる分断

ーファン同士の会話におけるポジショニングに着目してー

岸田月穂(大阪大学大学院生)

1. 発表概要

オンライン上で形成されるコミュニティの1つであるファンコミュニティでは、属性に基づいた分断が生じることがある。例えば、長谷川（2004）では、コミュニティの新規参加者に対し批判的な言葉が投げかけられることが指摘され、新規参加者と既存の参加者の間で分断が存在していることが示唆された。台湾におけるジャニーズファンコミュニティを研究した龐（2010）は、ファンの中で存在するヒエラルキーがファン同士の関係性やコミュニケーションに影響を与えることを指摘している。炎上や誹謗中傷が社会課題として顕在化した2020年代以降は、「わがままなファン」が行う芸能人に対する誹謗中傷の存在が指摘されている（伊藤, 2022）。したがって、「わがままなファン」のコミュニティにおける位置づけを明らかにすることは、現代のファンコミュニティの様相を描き出す上で重要であると言える。

本発表では、SNS上で形成されるオンラインファンコミュニティの1つ（以下、対象ファンコミュニティ）に所属する発表者及び研究協力者が行った「わがままなファン」に関する会話（以下、談話データ）をポジショニング理論（Bamberg, 2004）に基づいて分析する。分析を通じて、会話参加者が他のファンと対比して行う自己の位置づけに着目し、オンラインファンコミュニティに見られる分断の様相を呈示することを目指す。そのために、以下の3つの研究設問（RQ）を設定する。

- 1) 対象ファンコミュニティに所属するファンは、「わがままなファン」や応援対象についてどのように語っているか
- 2) 対象ファンコミュニティに所属するファンは、インタビュー内でどのように自己を位置づけているか
- 3) 対象ファンコミュニティに所属するファンは、社会においてどのように自己を位置づけているか

2. 調査概要・研究方法：インタビュー談話のポジショニング理論に基づく分析

対象ファンコミュニティは、2016年に結成されたYouTubeなどで歌やゲームなどのコンテンツを投稿する6人組配信者グループを応援するファンの集団である。対象ファンコミュニティに所属するファンは10代～20代の女性のファンが多いという特徴がある。表1は、調査協力者情報の概要である。

表1 調査参加者概要

研究協力者	年齢	性別	ファン歴
ゆみ (Y)	20代前半	女性	2018年～
なつみ (N)	20代前半	女性	2018年～
しおり (S)	30代前半	女性	2020年～
みな (M)	20代前半	女性	2019年～
あみ (A)	20代前半	女性	2020年～
りの (R)	20代前半	女性	2020年～
ことみ (K)	20代後半	女性	2020年～
えり (E)	20代後半	女性	2022年～
とおる (T)	10代後半	男性	2018年～
るな (L/発表者)	20代前半	女性	2020年～

発表者は、研究協力者9名と交流を重ねた後に研究協力を依頼した。また、発表者は、参与観察やインタビューを行う一方で、調査実施前から対象ファンコミュニティに所属しているファンでもある。「るな」は、発表者がファン活動の際に使用していた名前である。なお、研究倫理の観点から、研究協力者の名前は、本名及びファン活動時とは別の仮名を示している。表2はインタビュー調査の概要である。

表2 インタビュー調査概要

インタビュー番号	日時	参加者	時間
1	2023/8/5	るな, りの	47 分
2	2023/8/6	るな, みな	49 分
3	2023/8/17	るな, ゆみ, なつみ, みな	1 時間 37 分
4	2023/8/18	るな, ことみ	3 時間 47 分
5	2023/8/22	るな, えり	48 分
6	2023/8/24	るな, とおる	1 時間 28 分
7	2023/8/28	るな, あみ	1 時間 3 分
8	2023/9/1	るな, ゆみ	2 時間
9	2023/9/1	るな, ことみ	3 時間 5 分
10	2023/9/6	るな, なつみ	2 時間 28 分
11	2023/9/14	るな, ゆみ, あみ	2 時間 3 分
12	2023/9/14	るな, ことみ	2 時間 30 分

2023 年 8 月から 9 月に、同意が得られた研究協力者に対してインタビュー調査を実施した。インタビュー調査はすべて Zoom を用いてオンラインで実施した。談話データは、インタビュー9 の中で行われた「わがままなファン」についての語りである。本発表では、談話データに現れるポジショニングに着目する。Bamberg (2004) は、ポジショニングにおける3つのレベルを定めた。レベル1は、語りの時間や場における語り手の自己の位置づけ、レベル2は、相互行為の場において表明される語り手の自己の位置づけ、レベル3は社会における既存の支配的言説における語り手の自己の位置づけである。本発表では、インタビュー談話に現れる参加者のポジショニングに着目し、対象ファンコミュニティにおける「わがままなファン」に対する認識を明らかにすることを通じて、現代のオンラインコミュニティの分断の様相を示すことを目指す。

3. データ分析

ファンの応援対象の配信者は、YouTube やツイキャスなどの動画配信サイトで無料の動画投稿や配信を行うと同時に、有料のメンバーシップに加入したファンのみが閲覧可能なサービスを展開している。談話データは、インタビュー9において、ことみ(K) とるな(L・発表者) が有料のメンバーシップのサービスの値上げに対して文句を言う「わがままなファン」について話す場面である。

談話データ：応援対象の活動に文句を言う「わがままなファン」(インタビュー9 29:30-31:00)

- 01 K: 多分. 小中学生は暴れるんじゃない↑ない
- 02 L: @@暴れる@@@
- 03 K: /?/
- 04 L: うん
- 05 K: 「入れない人の気持ち考えたことあるんですか」 って@@@
- 06 L: 例のね[「入れない人の気持ち考えて」 @@@
- 07 K: [@@@例のうん
- 08 K: そう. んくだから何↑ってなっちゃうから.
- 09 L: h そうなれないからな↑あ:
- 10 K: う: ん別に良くな↓いって. だってさあ: 無料じゃないわけだから↓さ: [無料で全部できるんだったら↑さ:
- 11 L: [確かに
- 12 K: なんか無料で全部やろうと思うけどさ: 無料でやったら自分たちの活動ができなくなるからさ: @@
- 13 L: う: ん
- 14 K: そうそう活動のことちゃんと考えてあげ↑なって. うん.

- 15 L: ねえ＝
 16 K: =YouTube とかでタダで見れるのは本当にありがたいことなんだよっていう
 17 L: いやほんとにそれは思ったよあのく無観客ライブの時とかさ: [あのだいぶ前の 2020 年とかの
 18 K: [うん
 19 K: うんうんうん
 20 L: 私が入るきっかけになったやつとかも: 無料だったけど. まあ見れるように[無料で見れるあれになってたけどh(3.0)
 21 K: [うん [そう
 22 L: うん
 23 K: そう. だから無料で入ってきた人>若い↑子くはその無料に慣れてるから無料じゃないことに抵抗があるんじゃない
 24 「今まで無料で見れてたのになんで無料じゃない↑の」みたいな (2.0) お金がかかるんだ↑よ: と思って@@@
 25 L: なんかあった↑ね: なんかその無料じゃなくなったタイミングいつだったかな. なんかオンラインのライブなの↑に
 26 K: [うんうん
 27 有料になったタイミン↑グ
 28 K: うんうんうん
 29 L: ツイキャスで有料でやりますみたいな感じだったかな
 30 K: うん
 31 L: なんか時にちょっと荒れてた@[荒れてたっていうか[なんか「ええなに」みたいな
 32 [う:ん [うん
 33 K: 普通は金取るんだよって. 無料でやるのは新しい新規開拓への道だからっていうのがたぶん. ね大人になったらわか
 34 るけど↑さ:@@h 何するにもお金はかかるんだよって. ボランティアじゃないんだから
 35 L: [うんうん

3.1 ポジショニングレベル1：対象ファンコミュニティの「わがままなファン」と「応援対象」の描き方

K はメンバーシップの値段が上がった際に「小中学生は暴れる」(1 行目) と語り, L も笑いながら「暴れる」という言葉を反復している. このことから, 2 人の間に「わがままなファン＝小中高生」という認識が共有されていることが分かる. その後, K によって「(メンバーシップに) 入れない人の気持ち考えて」(6 行目) というファンの発言が引用された. この引用は, 笑いとともに表明され, K が「わがままなファン」に対して呆れていることが示唆されている. L はその引用を反復し, 「わがままなファン」に対する嘲笑の態度の共有を示している. さらに, 2 人は「だから何」

(K/8 行目) や「そうないからなあ」(L/9 行目) と語り, 「わがままなファン」の気持ちが理解できないという態度を表明している. したがって, 会話参加者 2 人は「わがままなファン」を「理解できない他者」として描き, 自分たちとは異なる存在であることを強調している.

また, K は「有料のメンバーシップサービスを開始した応援対象」に対する評価を行っている. まず, K は「無料でやったら自分の活動ができなくなる」(12 行目) と応援対象への同情を示すと同時に, 「活動のことを考えてあげな」(14 行目), 「お金がかかるんだよ」(24 行目) と「わがままなファン」に態度の変容や他者への理解を求める言動を行っている. このことから, 「わがままなファン」は, 「応援対象の活動の大変さや性質を理解せずに文句を言う小中高生・若い子」であると捉えられていることが分かる.

3.2 ポジショニングレベル2：インタビューの場における会話参加者の自己の位置づけ

K は, わがままなファンを「小中学生」(1 行目), 「若い子」(23 行目) と表現する一方で, 自分を「大人」(33 行目) と位置付けている. L が対象ファンコミュニティに所属するきっかけとなった「無観客ライブ」が無料であったことを話した後, K は「無料で入ってきた人>若い↑子く」(23 行目) が無料を当たり前と捉え文句を言うと言っている. この場面では, K は 20 代前半で自分より年下の L も「無料で入ってきた若い子」であり, 「無料の活動を当たり前と捉えるファンの 1 人」として捉える可能性がある. そこで L は, 「応援対象の活動が無料でなくなったタイミングにおける炎上」を自分とは無関係な出来事として引用することで, 自身が「無料の活動を当たり前と捉え文句を言うファン」ではないことを強調している. したがって, 2 人は「応援対象の活動が無料であることを当たり前であると捉え, 文句を言うわがままなファン」と自身を区別しており, その区別を聞き手に強調していることがわかる.

3.3 ポジショニングレベル3：インタビューの場を離れた社会文化的アイデンティティ

「大人になれば無料でやるのは新規のファンを開拓するためであることが理解できる」(33 行目) という K の語りは「小中高生」や「若い子」は「大人」になるまでの発展途上にいる存在の「子ども」であることを示唆している. 同時に, 対象ファンコミュニティにおける「わがままなファン」は「大人の事情 (応援対象の活動は仕事であり, お金がかかること) を理解せず文句を言う未熟な存在」であり, 2 人は「わがままなファン」と自身を明確に区別している. したがって, 2 人には「子どもを見守る大人として応援対象の仕事を理解し受け入れる自分」というアイデンティティが存在していることが分かる.

4. 考察・結論

会話参加者は「応援対象」の活動を「無料で提供することができない仕事」とであると評価し, 応援対象の活動が高額であることに文句を言う「わがままなファン」は「小中学生」や「若い子」とであると語っている (RQ1) .そして 2 人は「わがままなファン」と自分は異なる存在であることを互いに強調している (RQ2) .また, 「わがままなファン」と自分を区別するために「大人」という表現を用いていることから, 「応援対象の活動を理解し感謝を示す大人」として自己を位置づけていることがわかる (RQ3) .

対象ファンコミュニティには不特定多数のファンが存在するという性質上, 「わがままなファン」が「小中学生」や「(K にとっての) 若い子」とであると特定することはできない. しかし, K は「小中学生や若いファンが応援対象に文句を言う」というわがままな振る舞いをしているという前提を語り, L はそれを受容している. この結果は, 対象ファンコミュニティには「わがままなファンが若い子, 小中学生である」というステレオタイプが存在しており, これによってファン同士が分断している可能性を示唆している.

参考文献

Bamberg, M. (2004). Form and Functions of 'Slut Bashing' in Male Identity Constructions in 15-Year-Olds Human Development, 47 (6), 331-353.

長谷川典子. (2004). インターネット掲示板のエスノグラフィー：日韓異文化コミュニケーション研究に向けて 多文化関係学, 1, 15-29.

伊藤昌亮. (2022). 炎上社会を考える 自粛警察からキャンセルカルチャーまで. 中央公論新社.

龐惠潔. (2010). ファン・コミュニティにおけるヒエラルキーの考察—台湾におけるジャニーズ・ファンを例に 東京大学大学院情報学環紀要, 78, 165-79.

トランスクリプト記号

[2 行の発話が重なっている	/ ? / 聞き取り不能	↑ 上昇イントネーション
↓ 下降イントネーション	(秒数) 秒数分の沈黙, ポーズ	@ 笑い
h 呼気音	= ラッチング	「文字」 引用部
<文字> 前後に比べてゆっくりと発話されている部分		
>文字< 前後に比べて速く発話されている部分		

(トランスクリプト記号は大阪教育大学「トランスクリプトに用いる記号一覧」を参照し, 筆者が作成)